

人のうごき

(平成28年1月末)

人口 88,502(-116)

世帯 46,865(-49)

()は前月比

国民健康保険料 10期
後期高齢者医療保険料 10期
介護保険料 10期
3月31日までに納めましょう

編集後記



▶数年前の広報むろらんに看護専門学院勤務時代の学生を発見。現在、看護師として活躍する彼らの笑顔が素敵でした。過去の広報紙は市ホームページに掲載しています。懐かしい思い出があるかも?(大)

▶昨年9月号に掲載した港まつりの組み写真が、広報コンクールに入選。これも取材に協力いただいた皆さんのおかげです。今年の港まつりは、記念すべき70回目。ふさわしい紙面を作らねば!(さく)

▶閉校式典の取材で懐かしの母校に約12年ぶりに行きました。4月からは、校名を新たに「蘭北小学校」としての再スタート。中も外もピカピカの校舎で学ぶ子どもたちが少いうらやましいなあ。(井)

▶港の文学館の「ことばと日本の心」展の後期展示が3月末で終了。世界最古の長編小説『源氏物語』や市内で活動している俳人の作品に触れて、日本語の持つ母音の響きと美しさを感じてみては。(ゴ)

▶東日本大震災から5年、復興にはまだ時間を要する。北海道新幹線開業やフェリー航路開設など、東北と室蘭は近くなる。足を運んでみてはどうだろう。旅行に行くだけでも復興の一助になるはず。(t)

広報むろらん

2016年3月1日 No.1020

■今月の表紙

総合福祉センターの講座“陶芸教室”。参加者が思い思いに作品を制作する中、参加1年目の女性は、孫が使えるような器を作りたいとろくろを回しながら、慎重に成形していました。皆さんオンラインワンの素敵な作品を作ってくださいね。

■発行・編集

北海道室蘭市総務部広報課

〒051-8511 室蘭市幸町1-2

☎ 0143-25-2193

☎ 0143-25-2835

✉ shimintaiwa@city.muroran.lg.jp

🌐 <http://www.city.muroran.lg.jp/>

🐦 http://twitter.com/muroran_city

ご意見・ご感想をお寄せください。

■印刷 株式会社日光印刷

ものづくり

室蘭人

「早く一人前になって、後輩が
仕事で自分に成長させてくれる
入社してすぐに溶接工になった
星野さん。高校では建築を学んだ
が、建物ではなく橋の建造に携わ
ることに。星野さんの業務は、裁
断された鋼板を組み立てる溶接業
務。一つ一つの部分が巨大なため
大部分は機械での溶接だが、細部
は人の手による溶接が必要だ。橋
の建造は、利便性、安全性の確保
が最も優先される。そのため、欠
陥品を出さないように1千度の火
を取り扱う溶接にも細心の注意が
求められるという。」

できたときに指導することが目標。
人に教えることは、自分が学ぶこ
とにも繋がります。良い職場環境
で先輩たちから学ぶことが、仕事
が大好きな職人に成長させてくれ
ています」と爽やかな笑顔で話す
星野さん。
平成10年に開通した市のシンボ
ル白鳥大橋は、同社も建造に関
わった。その頃は幼かったが、こ
れから造られる橋は自分とともに
歩んでいく。ものづくりと自身の
人生を重ねて、将来を見据える若
きものづくり室蘭人は、今日も技
術を磨き続ける。
※今月でのコーナーは終了します。



株式会社 榑崎製作所

星野 由揮 さん

登別市出身。21歳。市内の高校を卒業後、橋梁、環境機械など鋼構造物製造の同社に入社。溶接工として、橋梁建造業務に携わる。



福田 歯科

昭和50年に開業。今年1月に新築移転したばかりの院内には、キッズスペースや、トイレにおむつ交換台と赤ちゃん用のイスを設置している。

また、女性職員の半数が子育て世代なので、子どもの行事や急病のときに家庭を優先できるよう、職場環境に配慮している。

住所 輪西町2-8-2 ☎ 45-6106

応援団に仲間入りしました



・手もみ工房えいる

・雑古

(1月31日現在) (ランジェリー・小物販売)

子育て応援団への登録を随時募集しています。子育てを応援する取り組みを継続して実施できる、市民や団体・企業などからの連絡をお待ちしています。

《詳細》子育て支援室 ☎50-5101



子育て応援団に登録した団体などを紹介します。

幅広い世代に来てもらいたい

まるでレストランか雑貨店と見紛う福田歯科は、「設計を任せる」という高校時代の友人との約束が実現した地元愛を感じる建物です。バリアフリーを意識した内装で、子育て世代のための設備を用意しています。「私も小さな子を持つ親で、ここを建てるとき、妻のアドバイスで子どもにも優しい施設にしました。」と福田院長。

子育て応援団に登録したのは、子育て支援サークル「ワニワニクラブの仲間達の会」のスタッフが通院していた縁で、制度を知ったからです。患者の多くは高齢者ですが、最近は子ども連れの人も増えてきました。これからも、幅広い世代に来院してもらえる地域に根差した診療所を目指します。